

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	関市	学校名	関市立津保川中学校			
校長名	宮西 克比古	対象学年	1年生	人数	25	人
活動名	「ふるさとの自慢を知ろう」 (1年)	時間数	18	時間	継続年数	1年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [津保川地域の活性化] 6 その他（ ） []					
複数年継続するための工夫改善	本年度、学校統廃合によってできた新設校である。そのため新しく「総合的な学習の時間」のカリキュラムを作成する必要がある。ワークショップ型職員研修を取り入れて全職員でカリキュラムを考え、実践し、活動の振り返りをおこなうマネジメントサイクルを機能させることで、よりよい活動になるよう工夫している。					

1 ねらい

体験を通して感じた津保川地域のよさを、個人新聞やPR動画にまとめて地域活性化につなげる。

2 活動の概要

学習課題 「津保川地域を活性化させるために、地域のことをもっと知ろう」

学習活動

- ① 津保川地域の現状を知ろう。
津保川地域は少子高齢化が進んでいる。データで具体的にみると、現在の人口は約5000人、20年前は約7000人、このペースでいくと50年後にはふるさとが存在するかどうかかわからないということがわかった。
- ② 3つの小学校区のそれぞれの魅力を紹介する。
「津保川地域の地図に魅力を付箋で貼っていく」
「津保川地域の施設や名所を自分たちがどれだけ知っているかアンケートをとる」
「自分のおすすめの施設や名所を1人3分で紹介する」
- ③ 実際に地域めぐりをする。
コースは学習係の生徒が考える。
学習係の生徒が他の生徒を案内する。
- ④ 個人新聞・PR動画にまとめる。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ① 地域めぐりで「武儀生涯学習センター」「道の駅」「ほほえみの湯」等の人が集まる施設を訪れ、その施設をもっと活性化させるためにはどうしたらよいか生徒がディスカッションをして、その結果を「中学生の意見」として施設の方に提案した。
- ② 個人新聞は「道の駅」「ほほえみの湯」「武儀生涯学習センター」等に掲示させていただき、中学生の活動を知ってもらおうと同時に、地域PRにも一役買った。
- ③ PR動画は地域の方や先生を招待して発表会を行った。

4 活動を通しての児童生徒の変容

- ・地域住民との対話を通して、自分たちの住む地域が現在抱える問題に向き合うことができた。また、自分たちがその解決策を考え地域に伝えることで、地域の一員としての自覚持つことができた。
- ・課題の追究方法等活動の1つ1つについて生徒自身で考える過程を大切にすることが、生徒の主体的な学習姿勢に繋がった。